

■ 整形外科

① スタッフ

上杉雅文	H4 卒
田中ハルカ	H11 卒
河野衛	H20 卒
菊池直哉	H25 卒
村上浩平	H26 卒
清水知明	H27 卒
岡本千尋	H27 卒

平成 29 年度は上杉、田中、河野および筑波大学整形外科からの後期研修医のローテーション（菊池、村上、清水、岡本）による 6 名体制で診療を行った。

入院患者数は増加、外来患者数は初診・再診とも減少傾向にあったが、紹介患者数は増加傾向にあった。病院全体の方針である地域医療支援病院取得に向けた「入院を中心とした診療」への方向性が反映された結果となった。

② 外来患者動向

前年度と比較し、外来患者数は初診・再診とも減少傾向にあった。その理由として、病院全体で取り組んだ逆紹介の推進があげられる。これまでは、近隣に整形外科医療機関が少ないという事情から、多くの外来患者が当院に集中していた。しかしながら、あまりにも多くの患者が受診することにより、待ち時間の過度な延長や、一人ひとりの患者に十分な診察時間を確保できないなどの問題が生じていた。

対策として、病状の安定している患者に対し、十分な説明を行い同意が得られた場合に、可能な範囲で近隣の整形外科医院への逆紹介を行ってきた。

したがって、外来患者数の減少は、単なる減少ではなく、患者数の適正化と考えている。結果として紹介患者数の増加傾向を認めており、地域の基幹病院としてふさわしい外来診療に変化しつつあると考えている。

③ 入院患者動向

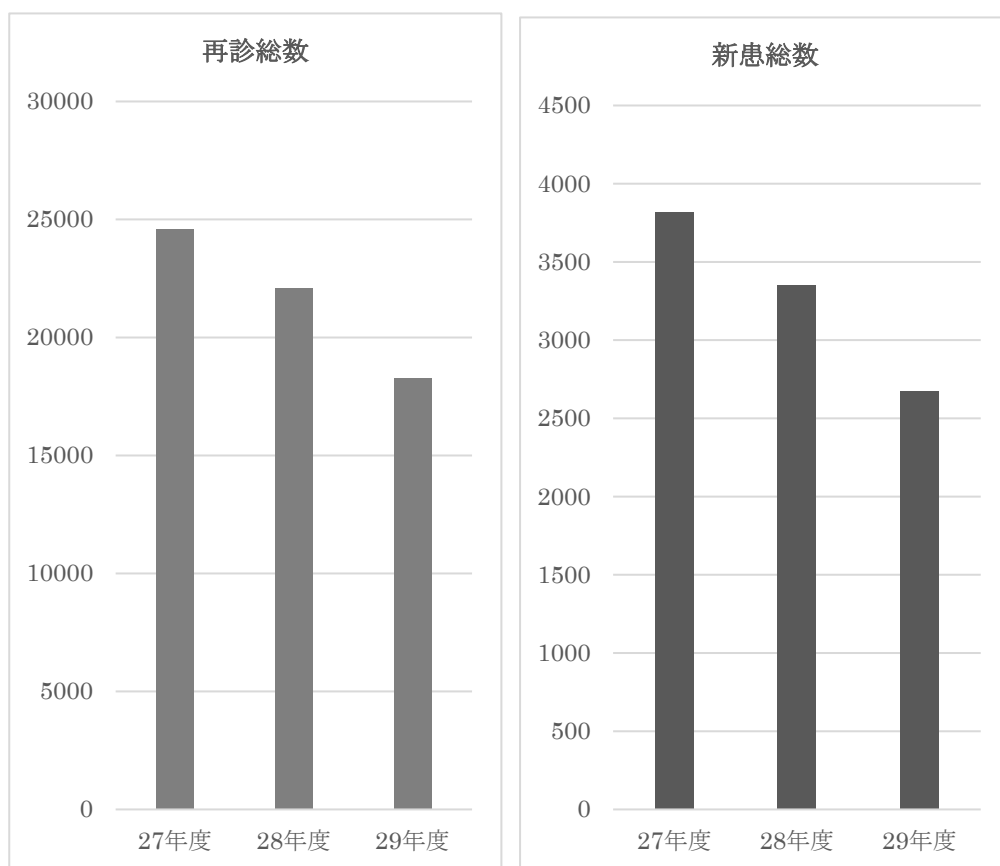
月別入院患者数は、おおよそ前年度以上の入院患者数であった。8 月が昨年を下回ったが、過去最高であった昨年実績に匹敵する数値であり、現状のスタッフでの適正入院患者数と考えている。

手術件数は骨接合術が減少、人工関節・脊椎手術が増加傾向にある。病院全体の救急車収容台数がやや減少傾向にあることが反映された結果と考えるが、紹介患者の増加により人工関節・脊椎手術等、重症外傷に匹敵する高度な手技が必要とされる手術が増加傾向にあることは、当院の機能向上の点から好ましい傾向と考えている。

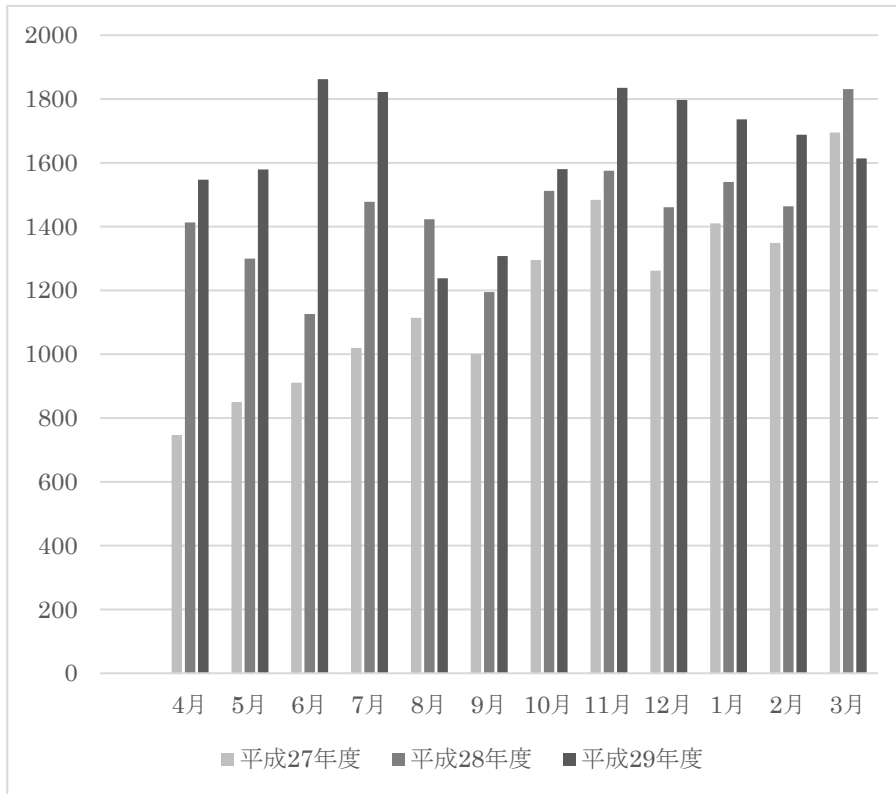
4 総括

紹介患者の増加に伴い、人工関節・脊椎手術等の高難度手術件数が増加傾向にある。これら紹介患者への対応と合わせ、救命救急センターの整形外科にふさわしい救急患者への治療にも積極的に協力していきたい。

外来患者数



入院患者数



手術件数

手術部位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
骨接合術	376	391	341
人工関節 骨頭置換	57	66	84
脊椎	79	102	148
関節鏡	10	19	15
腱 皮膚 神経	117	124	83
腫瘍 異物	17	21	9
抜釘	80	92	103
切断 断端形成 偽関節	13	31	22
その他（デブリ・創傷処理等）	6	46	43